

うな心配りをしてそれぞれのネームプレートを
黒板に貼った。



この授業で教師は、ネームプレートを貼れな
かった生徒へもそれぞれの活動を十分に認める
配慮をしながら多様な言葉かけをしていた。

2 単元の実践

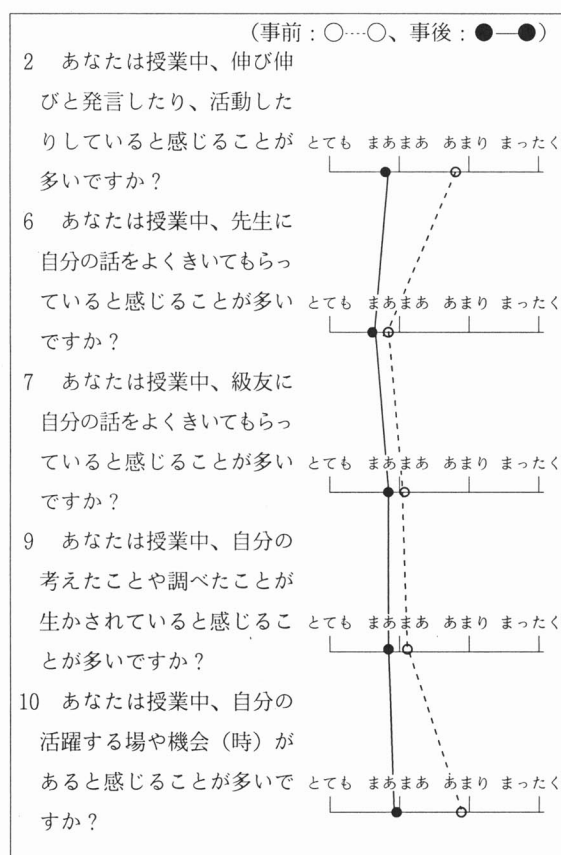
(1) 単元を通したネームプレートの活用

本単元では、ネームプレートを次のようなと
きに用いた。

- ・ 発言しないまでも発言内容と同様な考
えを持っていたとき
- ・ 小声ながらも貴重なつぶやきなどをし
たとき
- ・ 目立たないながらもよく活動し、指名
によって十分に発言できたとき
- ・ 資料や作業などから気づいたことや感
想の求めに応じて発言したとき
- ・ 他の生徒にはない、その生徒なりの独
自性を発揮できたとき
- ・ 読むことや書くこと、作業することな
どその生徒の特技を発揮できたとき

(2) 生徒の授業に対する意識

生徒の授業に対する意識調査から自己存在感
にかかわる項目を取り上げ、学級集計をした。



この調査から、「伸び伸びと発言したり、活
動したりしていると感じる」や「自分の活躍す
る場や機会があると感じる」生徒が特に増えた
ことが分かる。これは、ネームプレートを用い
て進めた授業実践の成果であると考える。

(3) イメージマップの分析

単元のはじめと14時間目に「日本の南西部」
の言葉からイメージできる事柄を書き出させた。

マップに記入された言葉数の学級平均は事前
28.8、事後107.9であった。次頁の例のように、
事前の内容はそれぞれの生活経験などから「博
多—ラーメン」のように記入された個性的なも
のが多く、当然本単元の学習内容とのかかわり
は薄かった。一方事後の内容は幅広く単元の学
習内容が記入され、しかも既習の歴史的、地理
的内容とも結びついて「九州—北九州工業地帯—
八幡製鉄所—官営工場—明治維新—明治天皇—